

「みんなが『本当の自分』を出せるために」

花園小学校 6 年 藤河 駿太

みなさんは、学校で楽しく過ごすことができますか。

私にとっては、学校とは一言でいうと、とても楽しい場所だと思います。色々な人たちと、授業などを通してより関わるができるからです。

しかし、世の中には学校に行きたくても行けない人や、学校に行きたくないという人もいます。私たちは、そういった思いを持っている人たちに一体何ができるのでしょうか。そもそも、その人たちに対する世間の対応の仕方は合っているのでしょうか。

私は最初に「学校に行くのが楽しい」と言いました。しかし、もともとは、学校に行くのが不安でした。

実は、私は 3 年生の頃に花園小学校に転校してきました。別の小学校にいた 1、2 年生の頃は学校に行くのが楽しかったのです。しかし、いざ転校してくると、みんなと仲良くなれるか、クラスになじめるかという不安でいっぱいでした。

実際、クラスみんなは拍手で温かくむかえてくれて、無事、教室に足を踏み入れることができました。しかし、知っている人もおらず、前の学校のように気が合う友達をすぐにはつくれませんでした。

また、ケンカすることもしばしばあり、次第に学校って大変だなと思い始めました。もやもやしたなんとも言えない気持ちを抱えながら、3、4 年生の時間が過ぎ去っていきました。

5 年生になって、徐々に気持ちが分かりあえる仲間ができてきて、上手いいかないようなことも少しずつ減ってきました。しかし、内心ではまだ、学校に行きたくないという気持ちも残っていました。

そんな時、私はある出来事に出会いました。それは、5 年生の人権学習です。クラスや学年で人権集会をすることになりました。それは、自分のことや今までの経験について語り合うというものでした。

私は、友達に誘われて、クラスの中で発表することにしました。私は友達とよくけんかをしていた頃のこと、みんなとうまくなじめるか不安だった時のこと、話し

づらいような心の内を思い切って打ち明けました。さすがに、少し苦しかったけれど、話し終わるとなんだかスーッと胸が軽くなりました。そして、私に対する励ましの言葉を送ってくれる人もいました。

翌日、思い切って話した私にクラスメイト全員が返しの手紙を書いてくれました。その手紙を読むと、不思議と笑顔になっていることに気づきました。今でも、その手紙を読むと、心が落ち着きます。私はそのことをきっかけとして、みんなに「本当の自分」を出せるようになっていきました。

6年生になって、クラス替えもあり、友達も増えました。5年生のときの人権学習までとは打って変わって、たくさんの人と話せるようになりました。

今ではすっかり学校が楽しくなりました。それは、あの時誘ってくれた友達、私を受け入れてくれた仲間たち、そして、いつも支えてくれた家族や先生方のおかげだと思います。私は、周りの人たちに自分の本当の気持ちを知ってもらうことでみんなと仲良くなれました。

この経験から、本当の気持ちを知ってもらう、あるいは周りの人たちの本当の気持ちを考えてみようとすることで、誰かの心が少し楽になってくるかもしれないと考えました。それは、学校だけでなく、社会においてもそうだと思います。

「本当の思いは何だろう？」と相手の気持ちを探ることが、つらい思いをしているかもしれない誰かの救いになるかもしれません。もちろん少しずつで大丈夫だと思います。その「少し」も、誰かが楽になるかもしれません。

私の学校やクラスにも、なかなか学校に来ることができていない仲間がいます。その人たちの不安を取り除くために、私のクラスでは、クラスみんなで動画を作り、クラスの様子や雰囲気を伝えることにしました。自分たちにできることとして、正しかったかどうかはわかりませんが、きっとその子の心には届いたのではないかなと思っています。

私は、みんなが少しでも学校が「本当の自分」を出せるような場所になってほしいと思っています。そのためには、みんなが相手の本当の気持ちを考え、その気持ちを互いに認め合い尊重し合う必要があると思います。そうすればきっと、学校だけではなく、この世の中で生きづらいつと感じる人たちの心も、救われるかもしれません。

私もまた今日から、自分の周りにいる誰かに、そっと心の扉を開いて耳を傾ける
ことから始めてみます。